カーペット　部分汚れ・シミの取り方

	汚れの種類	シミ・汚れの取り方
食品	紅茶・コーヒー	水で固く絞ったタオルで拭く。生クリームやミルク入りの時は、薄い洗剤液で拭く。古いシミは、レモン片か酢で拭くと効果的。
	コーラ（サイダー類）	オキシドールで拭くか、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。
	ビール・洋酒・日本酒	水またはぬるま湯を、布か綿棒に含ませて、シミを吸い取らせるような感じでたたく。ぬるま湯でも落ちないときは、アンモニアか中性洗剤で。
	ジュース（果実汁）	汚れてすぐのとき、水またはぬるま湯を含ませた布でふく。シミが残るときは、アンモニアか中性洗剤液で落とす。
	スープ	洗剤をつけて絞ったタオルで拭く。
	茶	「紅茶」と同じだが、古くなった茶渋は酢をつけ、オキシドールで拭く。
	あめ（キャンディー類）	お湯に洗剤を溶かし、それで絞ったタオルで拭き取る。跡が残っていたら、アルコールで軽く拭く。
	卵	白身は洗剤溶液でたたきだす。黄身はベンジンなどで脂肪分を取り、白身と同様にしてたたく。 熱湯はタンパク質を取れにくくするので注意。
	チューインガム	氷片で固めて取り、残ったものはベンジンでたたく。
	チョコレート	ティッシュなどで拭いてから、先にベンジンでたたいて脂肪分を取る。後、洗剤溶液でたたきだす。
	アイスクリーム・ジャム	粉末洗剤を山のように盛り上げ、べとべとしたものを吸い取らせる。乾いてからブラシではねのけるか、掃除機の隙間ノズルで吸引。
	カレー	水か湯で非ぼった布または綿棒でたたく。落ちなければ洗剤溶液（毛糸洗い用）で同様にしてたたきだす。
	ケチャップ	紙で拭き、酢で拭く。色が残ったらオキシドールで拭く。
	しょう油・ソース	ティッシュペーパーなどでできるだけ吸い取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。古いシミはオキシドールで漂白。
	酢・歯磨き粉・みそ汁	「カレー」と同様。
	生クリーム・バター・マヨネーズ	お湯を含ませた布で拭く。後、洗剤液で拭く。まだ残るようなら、アルコールで、ダメならドライクリーニング。
科学製品（化粧品）	口紅	アルコールでこすり取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。
	クリーム（化粧用）	紙で拭いてからアルコールで拭き、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。
	香水・化粧水	石鹸水で拭く。
	マニキュア	マニキュアの除光液で注意深く取る。
	ファンデーション（お白粉を含む）	ティッシュペーパーで拭き、洗剤液で拭く。残るときはアルコールで拭く。

科学製品（インク・塗料・その他）	インク（青・黒）	黒インクは洗剤で洗う。青インクはハイドロサルファイトの1%溶液を50～80℃にあたためたものに布か綿棒を浸し、たたき出す。
	インク（赤）	吸取紙で吸い取り、洗剤を溶かしたぬるま湯で拭く。または10%のアルコールかオキシドールで拭く。
	印肉（朱肉）	食用油をつけて拭き、洗剤で油を拭き取る。拭き広げないように注意。
	クレヨン・靴墨	ひどい汚れはアルコールを歯ブラシにつけて、たたくようにして取る。後、ぬるま湯で拭く。
	ラッカー（塗料）	マニキュアの除光液かシンナーで拭く。
	墨	ごはん粒を練って糊状にし、シミの上にのせて汚れを移し取るようにしてつまみ洗いする。毛羽立ちやすい繊維は板の上にのせてヘラでしごく。墨は拡散しやすいので要注意。
	ペンキ	油性のペンキはなるべく早くベンジンでたたき出す。完全に落とすころは難しい。カーペットなどの汚れはテレピン油は市販のクリーナーで拭く。
	灯油	粉末洗剤をつけて、吸収させる。ブラシで払い、自然に蒸発させて乾かす。窓を開けると乾きやすく臭いも飛ぶ。
その他	乾電池から出た汚れ	汚れたらすぐに酢で拭く。
	ふん（犬・猫）・赤ちゃんのそそう	漂白剤入りのクレンザーを盛り上げ、ベトベトしたものを吸い取らせる。乾いてから掃除機の隙間ノズルで吸引。漂白剤は殺菌作用があり臭気も消える。
	血液	オキシドールで拭くと簡単。または、水洗いしてから石鹸かアルコールで洗い、アンモニア液に浸す。古いシミもオキシドールで漂白。
	尿	お湯をかけながらタオルで何回か拭く。後、酢で拭く。カーペットなどのとき、それを少し浮かしてしばらく風通しを良くしておく。
	カビ	ブラシで払う。ひどいときは掃除機の隙間用ノズルで取り去る。洗剤液で拭くか、アルコールで拭く。
	泥	よく乾かして、指先で落としてからブラッシング。後、洗剤を入れたぬるま湯を含ませた布でたたき落としてから水で拭く。
	ロウソク	ティッシュペーパーをあてて、う上からアイロンをかける。
	こげあと	スチールウールで表面を軽くこする。後、オキシドールを含ませたガーゼの上からアイロンをかけ漂白。
	サビ（鉄）	3%しゅう酸溶液またはハイドロサルファイトの温液を布に含ませ下に敷いた布にたたき出す。取れるまで繰り返す。

※ウール製品には塩素系漂白剤、酸素系漂白剤を使わないこと。

※ここでいうアルコールは、市販の消毒用アルコール（エタノール）のこと。